

青梅上成木ふれあいの森

活動地域内の植生と特定植物のモニタリング調査記録 1604

1. 実施日 平成 28 年 4 月 16 日

2. 観察ルート 里仁会館～常盤橋～大滝～サエズリの谷～ワープ新道分岐～保全地域看板～瀬沢出合い
(大滝作業道口)～里仁会館

A. 里仁会館～常盤橋 (都道 202 号沿い)

- 里仁会館前から常盤林道までの都道 202 号沿いにはキンポウゲ科のニリンソウがたくさん咲いている。昨年の今頃は同じキンポウゲ科のアズマイチゲがまだ少し咲き残っているのが見られたが、今年は昨年と比べ草花の生育が早いようで、今回はアズマイチゲの花は既に花が終わりまったく見られず。
- 里仁会館周辺にはケシ科のミヤマキケマン、ムラサキケマン、ムラサキケマン変種のシロケマン (別名シロヤブケマン)、ジロボウエンゴサクがたくさん咲いているが、昨年同時期にこの辺りで見られた同科同属のヤマエンゴサクは今回見られなかった。
- 里仁会館前に種子を落とし枯れた花穂を付けたオトギリソウ科のオトギリソウがたくさん見られる。最近では自生数が増えているように思われる。
- 里仁会館前から常盤林道までの都道 202 号沿いにはたくさんのタチツボスミレが見られるが、葉の形が特徴的なエイザンスミレも多く見られる。
- 里仁会館の少し上流の白糸の滝近く、成木川右岸側のある民家の畑の端にサトイモ科のウラシマソウが群生状態で見られた。
- 都道 202 号沿いの所々でユリ科のミヤマエンレイソウ (別名シロバナエンレイソウ) が見られ、特に常盤橋の少し下流のある民家の畑近くには群生状態で咲いているのが見られた。この花も最近では自生数が増えているように思われる。
- 都道 202 号沿いのある民家の庭に毎年早春にたくさんの花を咲かせるキンポウゲ科のたくさんのフクジュソウがこの時期は大きな種子を付けている。



ウラシマソウ



ミヤマエンレイソウ



フクジュソウの実

- 都道 202 号沿いにはシソ科のヒメオドリコソウ、カキドオシ、クサノオウ、ムラサキ科のキュウリグサ、イラクサ科のカテンソウ、バラ科のクサイチゴ、モミジイチゴ、ヤマブキ、アブラナ科のタネツケバナなどが所々で見られ、開花にはまだ少し早いですがスイカズラ科のツルカノコソウが多く見られる。また、葉が互生からヤマネコノメソウ (あるいは、ツルネコノメソウかタチネコノメソウ)、葉が対生からヨゴレネコノメソウと思われるユキノシタ科のネコノメソウの仲間も都道 202 号沿いばかりでなく活動エリア内の随所で見られるが、ネコノメソウの仲間は自然交配による変種も多く同定が難しい。



ヒメオドリコソウ



カキドオシ



キュウリグサ



カテンソウ

B. 常盤橋～大滝（常盤林道沿い）

- 常盤橋の少し先、虹鱒の養魚場近くの水辺にアブラナ科のヒロハコンロンソウが群生状態で白い花を咲かせている。
- 常盤橋の少し上流、常盤林道左手のシダ類などの雑草が繁茂する岩肌にはイワタバコの若い葉がいくつか見られるが、乾燥化が進んでいるようで生育状態はあまりよくない。
- 常盤橋を過ぎた辺りから常盤林道沿いの草地にはタチツボスミレ以外にナガバノスミレサイシも多く見られるようになり、エイザンスミレ、ヒカゲスミレ、フモトスミレ、マルバスミレも所々で見られる。
- 大滝の少し下流の成木川沿いの草地にツボスミレ（別名ニョイスミレ）が群生状態で見られる。



ヒカゲスミレ



フモトスミレ

- 常盤林道沿いの所々でナデシコ科のミヤマハコベが見られる。
- ミズナラエリアなど間伐作業エリア内でも多く見られるセンリョウ科のヒトリシズカの特徴的な白い小さな花が常盤林道沿いでも所々で咲きはじめている。
- 常盤林道沿いの所々で蕾状態のシソ科のラショウモンカズラが蕾を付けはじめており、ユリ科のウバユリの新芽やゴマノハグサ科のクワガタソウの新芽が所々で見られるが、最近クワガタソウは自生数が減っているように思われる。



ミヤマハコベ



ヒトリシズカ



蕾状態のラショウモンカズラ

- ・常盤林道沿いにはユキノシタ科のアカショウマの新芽がそろそろ出はじめ、数は少ないがスイカズラ科のニフトコの幼木が、また、成木川沿いにはユキノシタ科のウツギが小さな蕾を付けはじめています。
- ・常盤林道沿いやイラクサの道の沢沿いで見られるベンケイソウ科のミヤママンネングサはまだ開花は少し先のように、活動エリア内のミヤママンネングサは年々自生数が減っているように思われる。

C. 大滝～サエズリの谷（イラクサの道）

- ・イラクサの道の入口近く、昨年イワタバコのモニタリングポイント①に設定した右手岩肌にはイワタバコの若葉がいくつか出はじめており、今後生育状態を継続的に要観察。
- ・イワタバコのモニタリングポイント①の少し先、昨年ツルリンドウのモニタリングポイント①に設定した右手山側の斜面のツルリンドウは昨年の赤い実がまだ一つ残っている状態で更に成長して蔓を伸ばし、分岐した蔓も見られる。今後生育状態を継続的に要観察。
- ・イラクサの道の沢沿いの所々にはキンポウゲ科のトウゴクサバノオが小さな花を付けており、ウマノスズクサ科のフタバアオイの新芽も見られる。



トウゴクサバノオ

- ・イラクサの道の沢沿いの途中、昨年イワタバコのモニタリングポイント②に設定した左手山側岩肌には少しだけイワタバコの若葉が確認できたが、年々自生数が減っているように思われる。今後生育状態を継続的に要観察。
- ・イワタバコのモニタリングポイント②の少し上流部の三角岩周辺は岩肌の乾燥化がひどく今回もイワタバコはまったく確認できず、今後とも自生は期待できそうもない。
- ・イラクサの道のイラクサはほとんどが新芽状態でまだ自生数も少ない。
- ・イラクサの道からサエズリの谷にかけて見られるナス科のハシリドコロやユキノシタ科のハナネコノメソウはそろそろ花は終わり。
- ・イラクサの道からサエズリの谷にかけてキク科のモミジガサが所々で見られるが、ほとんどがまだ小さな新芽状態。
- ・サエズリの谷に自生するヤマゴボウ科のマルミノヤマゴボウは今回の観察では自生が確認できなかった。
- ・昨年同時期での観察でサエズリの谷の南東面の岩場高所に沢山咲いていたイワウメ科のイワウチワは今回の観察では岩場はかなり高所に花後の葉が少し確認できただけで花はまったく見られなかった。数年前から岩肌の崩落が少しづつ進んでおり、サエズリ広場前のザレ斜面も崩れそうで岩場直下まで近づくのが危険なため今回は遠目から確認しただけだが、植生環境が悪化しているようにも思われ、今後の自生状態が懸念される。

D. サエズリの谷～保全地域看板（サエズリの道、スミレの道）

- ・サエズリの道からスミレの道へ向かう途中、昨年イワタバコのモニタリングポイント③に設定した支沢の出会い付近の左手の岩肌はここでもイワタバコの新芽がいくつか出はじめているのが確認された。今後生育状態を継続的に要観察。
- ・サエズリの谷からサエズリの道にかけては花を付けず特徴的な長い葉が目立つナガバノスミレサイシン多く見られる。
- ・サエズリの道からスミレの道にかけての間伐エリアではオオバアサガラの幼木が多く見られる。

- 昨年センブリのモニタリングポイントに設定したスマレの道のセンブリはまだ新芽が確認できなかった。今後生育状態を継続的に要観察。
- 昨年、センブリのモニタリングポイントの斜面の上方、ミズナラエリアとスマレの道の間の斜面に群生していたセンブリは既に枯れ落ちて場所の確認ができなかったが、今後新芽が出る時期に自生を確認し、継続的に生育状態を要観察。
- スマレの道（日向）にはタチツボスマレとナガバノスマレサイシンが多く見られるが、葉の裏が紫色のシハスマレの自生も確認される。
- グリーンシップでの休憩地点、ベンチ設置付近の斜面の所々にはシソ科のニシキゴロモが多く見られる。
- 昨年ツルリンドウのモニタリングポイント②に設定した保全地域看板近くのツルリンドウは昨年より小さな株が更に増えているようで、生育の良い株のいくつかは更に蔓を伸ばしているのが確認された。今後生育状態を継続的に要観察。
- 保全地域看板近くのリョウブの木は新芽が出はじめている。

E. 保全地域看板～涸沢出合い（リンドウ坂、アジサイの道）

- 保全地域看板の少し下左手のイチヤクソウは昨年大きな1株が開花して実も付け、小さな株も含め13株ほどの自生が確認されていたが、鹿の食害か不明だが自生数が少し減っている。今後生育状態を継続的に要観察。
- イチヤクソウが自生する斜面で花卉に紫の筋模様があり、側弁に突起毛が見られ、鋸歯が平坦なフモトスマレの自生を確認。
- 昨年ツルリンドウのモニタリングポイント③に設定したリンドウ坂ベンチ近くのツルリンドウはその後にも順調に蔓を伸ばしている。今後生育状態を継続的に要観察。
- アジサイの道にはたくさんのエイザンスミレが見られる。
- アジサイの道にはキク科のカシワバハグマ、オクモミジハグマの新芽が多く見られる。

F. 涸沢出合い～大滝（常盤林道沿い）

- 昨年イワタバコのモニタリングポイント④に設定した涸沢出合いから大滝間の駐車スペース近く、山側岩肌のイワタバコは今年も若葉が多くは見られたものの、岩肌の乾燥化が更に進みシダ類など雑草の繁茂もひどく植生環境があまり良いとは言えない。また、昨年の植生調査では気が付かなかったが、このイワタバコのモニタリングポイント④より少し上流で反対側の成木川沿いの岩肌にイワタバコの自生を新たに確認。いずれも今後生育状態を継続的に要観察。

3. 総括

- 昨年は春先の寒の戻りや異常天候気温急変などで、例年に比べ草花の開花が遅れたものが多かったが、今年は気温の急変や寒暖差が大きく地球温暖化による異常気象が続いているものの、全般的に昨年より開花が早いように思われる。
- モニタリング植物については今年度もイワタバコ、ツルリンドウ、センブリについて昨年設定した同じモニタリングポイントについて定期的に観察を行う。

編集 青梅上成木ふれあいの森 しぜん部